

県産いちごの栽培技術向上を目指して 神奈川県いちご栽培技術研究会を開催

神奈川県いちご組合連合会（事務局：JA全農かながわ農産総合課）は8月20日、神奈川県農業技術センターで「神奈川県いちご栽培技術研究会」を開催した。本研究会は、いちご栽培農家の生産技術向上および、経営の安定を目的としており、生産者69人と県技術センター職員が出席した。

研究会では、株式会社ジャット岩田吉昭氏が育苗方法について講演を行った。同社で推奨している「先端押し」[全刈り育苗]の技術は神奈川県内でもすでに取り入れている生産者もあり、参加者が熱心にメモを取る様子が見られた。

後半は、令和5年度神奈川県いちご品評会（立毛の部）上位3人の生産者による栽培方法の事例発表と、神奈川県農業技術センター職員による「かなこまち栽培技術」の説明が行われた。

また、会場の一角では殺虫殺菌剤や梱包資材、花粉

交配用ミツバチなどが展示され、メーカー担当者が来場者に説明を行った。

神奈川県いちご組合連合会会長杉山圭一氏は、「神奈川県はいちご栽培の技術レベルが高いと感じている。本研究会を通して、生産者同士の交流を図るとともに、さらなる栽培技術の向上につなげていきたい」と話した。



岩田吉昭氏の講演を聞く参加者

土壌・肥料に関する幅広い知識を持つ人材の育成 JA施肥マイスター研修会開催

生産資材課は8月下旬、平塚市の全農田村事務所に、6月から延べ4日間にわたる令和6年度JA施肥マイスター資格取得講習会の閉会を迎えた。本研修会は、JA施肥アドバイザー資格認定者に対し、より専門的な土壌・肥料の知識の習得、適正施肥に対する取り組みや、JA内部の研修会などでも講師を務めることのできる人材の育成を目的としており、JA施肥アドバイザーの資格を持つ県内JA営農指導員ら14人が参加した。

研修会では、敷地内にある圃場の土壌診断結果から土壌改良資材・基肥の選定をグループごとに行い、選択した肥料を用いてコマツナを栽培した。栽培後は収穫し、コマツナが養分をどのくらい吸収しているのかを把握するため作物体分析まで行う。この他、土壌診断結果の見方や処方箋の作成方法など生産現場で必要とされる肥料提案までの知識を学んだ。

最終日には認定試験が行われ、合格者は「JA施肥マイスター」に認定される。肥料高騰を受け、適正施肥に向けた土壌分析の需要が高まり、診断結果を活用して処方箋を作成し、農家に分かりやすく説明できる人

材が求められている。

参加者は「土壌・肥料等について詳しく学べた。今回学んだことを実際の業務で生かしていきたい」と話す。

事務局を務めた職員は「土壌診断の重要性は徐々に認知されてきていると感じるが、土壌診断を出して終わりにしている農家さんも多い。本研修会を通して土壌の状態を数字で説明できる大切さを知ってもらい、生産者に対して適切なアドバイスが出来る人材を増やしていきたい」と話した。



土壌分析をする様子

令和5年度JAグループ施設事業優績組合表彰式開催

施設部は8月8日、「令和5年度JAグループ施設事業優績組合表彰式」を関内ホールで開催した。県下JA・子会社から役職員ら317人が集まった。令和5年度の受注契約高が5億円以上のJA・JA子会社から、JA横浜、JAセレス川崎、JAさがみ、JAあつぎ、JA相模原市および各子会社が特別優秀賞に輝いた。併せて、優秀賞が1JAに、優良賞が2JAに、努力賞が1JAに贈られた。また、受注契約高や初期情報収集件数、成約件数に応じて総計104JA支所、支店を表彰した。

令和5年度のJA施設事業は、新型コロナウイルス感染症の落ち着いたことによる都心回帰等の影響により、県内の貸家着工戸数は3年ぶりの減少となったが、JA・JA子会社との連携のもと、JAグループの総合力を發揮した推進施策の取り組み強化の結果、受注高は543億円となり、事業計画である545億円に近い実績となった。

県本部運営委員会の平本光男会長は、「組合員の資産を守り、次世代へのスムーズな継承を行う観点から、組合員の資産運用や資産保全、相続対策など、役職員の相談対応機能が求められる。今後ともJAグループの総合力を發揮し、組合員の期待に応えるべく、傾注して欲しい」と話した。

受賞組合を代表して、JA相模原市の落合幸男組合長は「施設事業は今や、JAと組合員を結びつける相談事業で、その中でも資産相談の実績は大きく上がり続け

ており、金融事業、共済事業にも直結するJAにとって大切な事業の一つとなっている。今回の受賞については、地域にあった施設事業をそれぞれのJA、子会社で一生懸命取り組んできた結果だと考える」と話した。

同日は資産管理相談員研修会も開催され、シー・エフ・ネットグループ会長の倉橋隆行氏が、神奈川県下の賃貸住宅の市場動向について講演を行った。

施設部では今後も、JA職員向けの研修や関連情報の提供、奨励施策の実施を通じて、指導・信用・共済部門との連携ならびに総合力を強化し、組合員の農業経営や資産管理を支援していく。



挨拶をする平本光男会長

令和5年度 JAグループ施設事業優績組合一覧（コード順）

特別優秀賞	JA横浜(株)JA横浜協同サービス JAセレス川崎(セレス不動産株) JAさがみ(さがみ協同開発株) JAあつぎ(厚農商事株) JA相模原市(くみあい商事株)
優秀賞	JAはだの(株)協同コンサルとはだの)
優良賞	JAよこすか葉山(株)コンサルタント協同 JA湘南(湘南くみあい商事株)
努力賞	JAかながわ西湘(JAかながわ西湘不動産株)

直売所間流通の促進を目指して

オール神奈川で連携「朝ドレッシング」リニューアル販売

JAかながわ西湘は、生活課と県内の調味料製造販売会社である(株)武居商店と連携して「朝ドレッシング」を「小田原の梅味」と「湘南ゴールドごま味」にリニューアルした。資材が高騰する中、従来と比べて販売価格を抑えたことで、消費者が以前よりも購入しやすい商品にした。特に、「湘南ゴールドごま味」は湘南ゴールドとごまの相性が良く、好評だという。今後、下中玉ねぎを使用した新商品を販売予定である。

県内JA直売所では、PB商品の充実や販路拡大などを目的に、直売所間流通を進めてきたが、物流や配送費の価格転嫁などの課題もあった。そこで、この課題を解決する試みのひとつとして、生活課が、物流や在庫を一括で管理し、県内JA直売所一律の価格で流通、

販売できる取り組みを始めた。今回の「朝ドレッシング」のリニューアル販売はこの取り組みの一環である。

JAかながわ西湘朝ドレファ〜ミ♪成田店の黒柳勇店長は「管内JA直売所のみで販売していると、製造数が多いため長期在庫を抱えることもあり、賞味期限の懸念もあった。この取り組みにより、県内JA直売所に加え武居商店にも販路が拡大され、商品の回転率が上がり、常に賞味期限が新しい商品を販売することができる」と話した。



左が小田原の梅味、右が湘南ゴールドごま味